

目的 アンブレラ・プリーツの製作上の問題点は、プリーツの折り山が放射状になるため、壺下または着用するうちに、折り山におじれが生じることである。製作に臨んで、これを防ぐ方法を考える必要がある。これまでプリーツを作る前処理の、伸ばしの適性伸長率を得るために、同素材、または素材別に検討し、ある程度の比較結果を出すことができたが、今回は、別の視点から実験を試みた。

方法 アンブレラ・プリーツは、一枚の布片の中央部を正バイアスとする、たて地、よこ地の交点を起点とし、ウエスト線、裾線を孤線で描く長めのスカートが、最も折り山のおじれが生じ易い。これは、中央部の伸長度が強いため、両端のたて地、よこ地の近くで布目の変形が集中的に起ることによる。それを防ぐには、正バイアスの部分を起点に向けて引き上げ、裾線付近の伸びを最少限に止める必要があると考え、実験を試みた。

結果 引き上げ寸法の差によるが、このように、一たん伸ばした上部をウエスト位置で再び引き上げると、長さの中央部分、および裾線付近が初めの伸ばし程垂れ下がらず、従って両端に向けて扇状にひろがる折り山を形づくる。たて、よこ布目の剪断変形が、最初の伸ばしによる変形よりも均等化され、落ちつきのあるプリーツ形状が得られた。これは一種類の布に限定しての実験であるが、各種の布の実験も試みたい。